

田浦地域小中学校教育環境整備検討協議会ニュース

～子どもたちのより良い教育環境のために～

Vol. 3 発行 横須賀市教育委員会 2022.11



10月3日に開催した第3回田浦地域小中学校教育環境整備検討協議会について、内容をお知らせします。

1 第2回協議会(7月13日開催)での整理について

(1) 他都市の統廃合の事例について

協議会委員からの質問を受け、直近で小学校の統廃合が行われた横浜市（保土ヶ谷区）、南足柄市等の事例を紹介しました。

(2) 田浦小学校の建て替えについて

協議会委員からの提案を受け、田浦小学校敷地内で建て替えのシミュレーションを行いましたが、以下の理由から、田浦小学校の建て替えは困難であると考えます。

① 建て替えの方法

現在の校舎を活用しながら建て替える場合、敷地が狭いため、運動場の確保が難しくなります。

② 土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）への対応

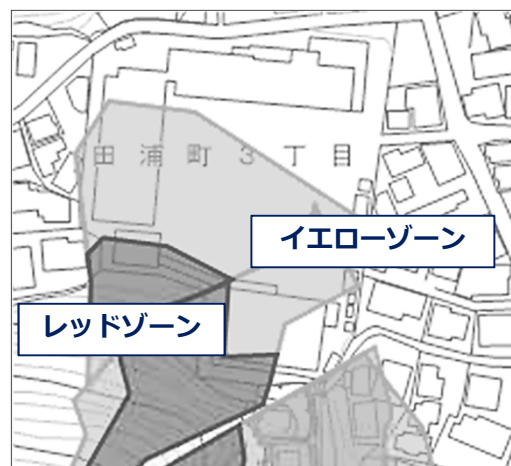
レッドゾーンを避けたり、学校敷地内に防護壁などの設置等の土砂災害対策を行ったりすることで、建て替え後に運動場として活用できる用地が狭くなります。

③ 外周の道路の拡張について

学校敷地の外周道路の幅員が基準である4mを下回っているため、校舎の建て替えの際には道路の拡張が必要となることで、学校の建て替え自体が困難となります。

また、道路の拡張を行った場合、学校の敷地へのセットバック（※）が必要となるため、結果として運動場として活用できる用地がさらに狭くなる問題もあります。

※ セットバックとは、道路に面している敷地を道路の中心から後退させることを指します。



2 教育環境整備の検討について

次の3つの案について整理を行い、各委員から意見を伺いました。

(1) 田浦小学校区を長浦小学校区に編入する（教育委員会事務局提案）

教育委員会事務局から1つの案として、田浦小学校区を長浦小学校区に編入する案を示しました。

本案は、長浦小学校と老朽化の著しい田浦小学校が小規模化している現状を踏まえて提案したものです。

○案に対する検討事項等

通学距離の遠距離化	<ul style="list-style-type: none"> 概ね最大1.2km程度だった通学路が、最大3kmとなる。
通学路におけるトンネルについて	<ul style="list-style-type: none"> 国道を通学路として想定した場合、最大3つのトンネルを利用する。 各トンネルの歩道が狭い。 通学以外の利用も多く、防犯も含めた安全性に不安がある。 トンネルの老朽化に不安がある。
地域について	<ul style="list-style-type: none"> 地域の学校がなくなることに對する心情的なサポートが必要である。 田浦小学校を廃止した場合の広域避難地の取り扱いをどうするのか。
	<p>【参考】港が丘1丁目を船越小学校区に編入した場合</p> <ul style="list-style-type: none"> 田浦連合町内会に属する湘南港が丘の全体が船越小学校区となる。 (湘南港が丘自治会以外の田浦連合町内会は田浦小学校区)

(2) 長浦小学校と田浦中学校に、それぞれ中学校と小学校を併設する（委員提案①）

協議会委員から、長浦小学校や田浦中学校に小中学校を併設する提案を頂きました。

本案は、船越小学校区を含めた田浦地域における学校の小規模化問題に加え、田浦中学校への通学距離が長い現状も踏まえ、小中学校の併設校を設置するという案です。

○案に対する検討事項等

ハード面	<ul style="list-style-type: none"> 長浦小学校に中学校を併設することは運動場の面積基準上、困難である。 田浦中学校に小学校を併設する場合、国の運動場基準の範囲内となるが、学校敷地の形状から、実現には工夫が必要である。
その他	<ul style="list-style-type: none"> 長浦小学校の敷地に中学校を新たに開設する場合、中学校の開設当初から小規模となるため、逸見小学校区、沢山小学校区を編入するなどの対策が必要である。 <p>⇒この対策をとった場合、坂本中学校区の小規模化等の影響が生じる。</p>

(3) 田浦小学校を現地で建て替える（委員提案②）

協議会委員から、地域住民の多くが田浦小学校の卒業生であることを踏まえ、田浦小学校の廃止ではなく、規模を小さくする形で建て替えを行う案の提案を頂きました。

本案に関しては、以下の理由から田浦小学校の建て替えは困難であると考えています。

○案に対する検討事項等

建て替え	<ul style="list-style-type: none">・敷地が狭い。・敷地の一部がレッドゾーンに入っており、擁壁の設置等防災対策が必要となり、運動場の確保が困難になる。・学校に至るまでの道路の幅員が狭く、狭い学校敷地側へセットバックが必要となるため、同一敷地内の建て替えは困難である。
------	---

事務局では、これらの案の検討に当たり、学校規模や学校施設の老朽化という観点だけではなく、通学距離の遠距離化、通学路の安全性、避難所の機能、各地域や各学校が持つ歴史、地域の文化圏等さまざまな観点を考慮する必要があると考えています。

今後も引き続き、地域の皆さまからの意見を伺いながら検討を進めてまいります。

3 協議会で出た意見の概要について

《建て替えについて》

- ・道路の幅員が基準未満の場合、民家にセットバックしてもらうよう交渉することはありますか。
⇒民有地ですので、セットバックするようお願いすることは難しいと思います。
- ・法面对策を行えば、レッドゾーンまたはイエローゾーンは解消されるのですか。
⇒土砂災害が起こらないような対策を行えば、レッドゾーンの解除は可能です。
ただし、敷地内で対策を行うこととなるため、建て替え後に運動場として活用できる用地が狭くなります。
- ・現在の校舎を活用しつつ、校庭に新校舎を建て替える方法以外で建て替える方法ありますか。
⇒諏訪小学校と常葉中学校で、同一敷地内で建て替えを行った事例はあります。この例を田浦小学校に当てはめた場合、田浦小学校を一度他の学校へ移転させて建て替える案も考えられますが、工事期間が長くなることなどを踏まえると、教育環境上好ましいものではありません。
- ・田浦地域の児童数の減少に伴う教育環境整備の話であるため、その場での学校の建て替えは、児童数の減少の解消にはつながらないと思います。

《地域の実情について》

- ・通学区域の範囲の検討については、地域の実情を考慮する必要があり、非常にデリケートな問題だと思っています。
- ・可能であれば、港が丘地域は田浦連合町内会に属したままにしてほしいと思います。

- ・田浦地区は広い集会場がなく人口が多い割に不便です。検討に当たっては、この状況をくみ取っていただきたいと思います。
- ・通学区域の検討に当たっては、各地域の歴史など地域の実情を踏まえていただく必要があると思います。
- ・バス通学が自費負担となると、田浦地域に住むという選択肢が取られなくなり、地域の存続にも関わります。小学生を対象に公共交通機関を無料とする施策を講じてもらえば、人口増加につながると思います。

《その他》

- ・田浦小学校の建築年数及び子どもの安全性を考えると、田浦小学校区を長浦小学校区に再編する案が有力だと思えます。
- ・昔と比べると、子どもたちが弱くなっています。特に小規模校では、小規模の良さもある一方で、人間関係が固定化されることでストレスを経験する機会がなくなっていると思います。問題が起きない学校が良い学校ということではなく、起きた問題について教師と一緒に乗り越えることで、さまざまなことを学べると思えます。
- ・田浦小学校と長浦小学校の再編だけでなく、近隣地域の小中学校も含めて広いエリアで長期的に検討することも必要だと思えます。

4 次回、第4回協議会の開催について

日時 令和5年1月31日（火）19時00分～20時30分

場所 長浦コミュニティセンター 集会室兼体育室

※傍聴できます。18時50分までに直接会場にお越しください。

定員10名（定員を超えた場合は抽選）

教育環境整備検討協議会について

当日資料や会議録等については、以下のホームページからご覧いただけます。

URL

<https://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/8115/documents/tiikibetukyougikai.html>

QRコード



～皆さまからのご意見等を受け付けております～

ご意見等がございましたら、ファクスまたはEメールにてお寄せください。

事務局（お問い合わせ先）

〒238-8550 横須賀市小川町11番地

横須賀市教育委員会事務局教育総務部教育政策課

電話 046-822-9751 ファクス 046-822-6849

Eメール sc-real@city.yokosuka.kanagawa.jp

横須賀が好き!

